

ロスで「やっとかめやねえ」

南カリフォルニア
南加岐阜県人会100周年からの風

米国カリフォルニア州南部に暮らす岐阜県ゆかりの人たちでつくる「南加岐阜県人会」はことし創立100周年を迎える。現在約80家族が登録し、郷土愛で結ばれている。海を渡った会員たちの活躍ぶりを伝える寄稿文を週1回掲載する。南加岐阜県人会のホームページアドレスは、<http://scagifu.web.fc2.com>

「やっとかめやねえ」、懐かしい方言で旧交を温めよう。ロサンゼルス郊外にある公園の一角で、パーベキューグリルを囲みながらあちこちで郷里の話に花が咲く。南加岐阜県人会のピクニック風景である。

世代、職業や経歴などはさまざまだが、岐阜を愛する、という点で一致している。誰もが、地元にいる頃にはあまり意識しなかった岐阜の良さを、遠く離れることでかえって再認識するようだ。どちらかというと地元志向が強いというイメージのある岐阜県人が、はるかロスの地にこんなにも多く住んでいるのか、というちょっととした驚きと感慨を覚える。



ピクニック参加者による記念撮影—ロサンゼルス郊外の公園



あるいは単純な憧れを持って、少しの勇気に加え、きっかけという後押しをもらいロスに渡ってきた。そのほとんどは、類まれな才能を持つわけでもない、至って普通の人間である。私もその一人であるが、当地で必須のはずの英語ですら未だに四苦八苦しているものも少なくない。

南加岐阜県人会は2011年が創立100周年にあたる。1900年代初頭に、海もない岐阜からはるばるロスまでやって来て日系社会の基礎を築いてきた先人たち、その苦労たるや、現代のわれわれの想像をはるかに超えるものだったと思う。しかし、彼らのおかげで、今こうやって異国の地で安心して生活を送っていられるわけで、そうした先人たちに敬意の念を表さずにはいられない。

また同時に、今度はわれわれが次の世代、あるいはこれからロスに渡って来る人たちに何かを受け継いでいく番ではないかと思う。岐阜からロスに、あるいは世界各地に旅立とうとしている人たちを勇気づけたり、不安を和らげたりするようなお手伝いができないか。われわれの存在や生活ぶりを知ってもらうことで、少しはそのお役に立てればと考えている。(文・ハッピー水谷)



ハッピー水谷 南加岐阜県人会会長。2004年に南カリフォルニアの気候に魅せられて家族と共に渡米。商業物件を専門とする不動産業を営む。岐阜市出身。